



ロイマタとはニュージーランド先住民のマオリ族の間で愛と友情の絆を表すお守りの名前です。

第4号

2007年4月20日

【発行】

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

TEL 03-6657-8539 FAX 03-3499-8539

E-mail: station@ai-port.jp

URL: <http://www.ai-port.jp>

子育て・家族支援者養成講座事務局

あい・ぽーとの新年度事業について

NPO法人あい・ぽーとステーション代表理事

大日向 雅美

桜前線はあつという間に関東を通り過ぎていきました。間もなく、北海道を訪れる頃でしょうか？

新年度が始まりました。皆様方におかれましてはお忙しい中にも、新しい年度の企画にいろいろと胸弾ませておられることと存じます。

あい・ぽーとも、新年度の企画が盛りたくさんスタッフ一同、張り切っているところです。

先日、開催された理事会でも本年の事業計画が承認されましたので、ここに紹介いたします。

1. 子育てひろば(あい・ぽーと)を中心に、従来からの事業のさらなる充実発展を目指します！

①今年度も、港区とその周辺地域の子育て家庭に対して、多様な子育て支援を提供します。親子が楽しく集い、子育ての喜びを実感できるよう、さまざまなプログラムをさらに充実さ

せることと共に、地域の交流拠点

子育て支援拠点として機能するよう事業内容の一層の充実を図ります。

②子育て・家族支援者として認定を受けた方々が「あい・ぽーと」でして下さる活動が年々増えています。一時保育の需要にさらに応えられるようになってきたことも、認定者の方々のお力添えのお陰です。地域の人々が子育て支援の専門性を身につけ、子育て支援に参画

できるような支援体制が、そして、認定者の方々に有償活動を保証するしくみが確立しつつあります。質的にも安定した住民参加の子育て支援がより確かなものとなるよう、努めます。

③2級認定者の方々によって行われている派遣型一時保育は、新生児から小学三年生までを対象に、病後児・お泊り保育を活動に含みますが、区内の子育て家庭から寄せられるニーズが急増しています。現段階では供給が必要に比べ足りないほどです。支援者の増加に注力します。

④人材養成事業の全国版の継続維持

浦安市は五月から三級Ⅱ期が、秋に二級Ⅰ期、千代田区は六月から三級Ⅱ期の開講が決定しました。また昨年度の認定者の方々へのバックアップ体制にも力を尽くしていきます。札幌市も開講の予定とうかがっておりますが、認定者の方々のバックアップ体制や講座開催日程等を含めて、今後、協議を進めていきます。

いと考えています。

2. 新企画として、自治体職員向けの子育て家族支援講座を開催します！

住友生命創業百周年記念事業『未来を築く子育てプロジェクト』全国子育て環境整備の支援助成事業にあい・ぽーとが選ばれました。

二〇〇四年度からNPO法人あい・ぽーとステーションが実施してきた地域の子育て・家族支援者養成の実績を踏まえて、各自治体の子育て支援担当者を対象に、子育て・家族支援への理解を深める講座を実施いたします。

子育て支援は、市民と行政との協働なくしては成り立たない時代を迎えています。しかし、ビジネスである行政職の方々にとっては、必ずしも子育て支援の必要性についての理解が十分でなかったり、必要性はわかっていても、具体的に何を、いかにすべきか、戸惑うことも多く、課題山積というのが実情という声がよく聴かれます。

講座では、市町村の子育て施策の企画実施を担当しておられる行政職の方々に、子育て家庭の親子の実態や子育て支援ニーズについて理解を深めていただくことを目的として、(子育て支援ニーズを汲み取る)市民NPOとの協働を進めるために(わが町にふさわしい子育て支援を考える)等をテーマに、現在企画を進めているところです。

会場は港区の子育てひろば(あい・ぽーと)で。秋から三回に分けて、一泊二日の研修を行い、講義と実地見学・グループワーク等で、熱い議論が展開されていくことを期待しています。講師には、小西行郎氏・岡健氏(すでに子育て・家族支

援者養成講座を担当していただいています)のほか、柏女霊峰先生(淑徳大学教授)、西川正氏(NPO法人市民活動情報代表理事)、大宮登(高崎経済大学教授)等の新しい講師陣にも加わっていただきます。本講座の企画責任は、人材養成の全国版と同様に大日向と汐見理事が担当いたします。

3. 六月の総会時に、NPO法人あい・ぽーとステーションの理事によるフォーラムを開催します！(テーマ)

「子育てにふさわしい街づくりを目指して」本年度も、あい・ぽーとは、子育て・家族支援を軸に、地域の育児力向上を目指してまいります。どうぞお力添えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

参考資料

住友生命創業百周年記念事業『未来を築く子育てプロジェクト』は、下記の募集も行っています。

スミセイ

100周年記念事業の個別活動の図

支援者の仲間の活動を

紹介します！

今回は、千葉県浦安市にある浦安市立当代島保育園の登園時間におじゃまして、保育園時間外サポーターとして活動していらっしゃる支援者の黒澤秀子さんの活動の様子を見学させていただきました。

浦安市は市立保育園の朝七時から十時半、午後三時半から七時の間、有償の時間外サポーターが保育士の先生とともに保育にあたるシステムを持っています。支援者の活動の場として、市からこの時間外サポーターの紹介もあり、新規で活動をスタートされた支援者の方もいらつしやいます。黒澤さんはこの時間外サポーターの仕事を勤めて四年のベテランです。

おじゃました時は、ちょうど職員の方々が保育・清掃を分担して行っているところでした。たくさんの「おはようございます。」という挨拶が響く中、次々と園児と親御さんたちが登園してきます。朝の受け入れはとてにぎやかです。特におじやましたときは四月の新入児が多く、まだまだ園児も不安定な時期。職員の皆さんは特にきめ細かく園児にかかわっていることが分かりました。

黒澤さんは、手際よく清掃を済ませると、担当の3・4・5歳児の受け入れをするホールで、子どもたちに

囲まれながら電車の線路の組み立てをせがまれています。「電車遊び一つとってもその子の個性が出るわね。」と微笑ましい笑顔を見せながら、子どもたちから引つ張りだてでかわつていきます。輪から外れてちよつとぐずっている子にはすかさず他の職員が目を配り、さりげなく声をかけています。

浦安市は市立保育園の朝七時から十時半、午後三時半から七時の間、有償の時間外サポーターが保育士の先生とともに保育にあたるシステムを持っています。支援者の活動の場として、市からこの時間外サポーターの紹介もあり、新規で活動をスタートされた支援者の方もいらつしやいます。黒澤さんはこの時間外サポーターの仕事を勤めて四年のベテランです。

おじゃました時は、ちょうど職員の方々が保育・清掃を分担して行っているところでした。たくさんの「おはようございます。」という挨拶が響く中、次々と園児と親御さんたちが登園してきます。朝の受け入れはとてにぎやかです。特におじやましたときは四月の新入児が多く、まだまだ園児も不安定な時期。職員の皆さんは特にきめ細かく園児にかかわっていることが分かりました。

見学を受け入れていただいた当代島保育園の皆様、そして黒澤さん、どうも有り難うございました。

浦安市長コラム

子育て支援に携わり少しでもお役に立てる事があればと素朴な気持ちからエンゼルヘルパーの一員になって7年の歳月が経ちました。当時お預かりして保育をしていた赤ちゃんは小学生になります。その間、担当の市の職員の方や私たちは本当に手探り状態だったと思います。7年の間大きな事故や事件もなく、無事に支援が出来たことは携わった人々の内なる信念の賜物と自負しています。その手厚い支援体制も周知されてくると予約で一杯になってきました。それは喜ばしいことなのですが、時には予約が優先してしまい、急な病気の時の対応が出来なくなってきていることも今般あるのです。電話一本かけさえすればエンゼルヘルパーさんが来てくれるその安心感さえなくなりつつあります。ヘルパーの人数にも限りがあるので依頼された方々全員のご家庭に伺えない状態に陥っています。孤立し誰も助けてくれる人がいない本当に困っている人のエンゼルヘルプをしていくことは今、難しい局面に立っていると思います。

(浦安市 森内 英子さん)

* 声のひろば *

皆さんからの
お声をお待ち
しています。

「エンゼルヘルパー」って何??

浦安市が7年前、全国に先駆けて創設した事業です。保護者が出産や病気などで、家事、育児ができないとき、周りからの支援が十分に見込めないとき、市の実施するこの「エンゼルヘルパー派遣事業」を利用することができます。エンゼルヘルパーの仕事は、家庭に出向いて、子どもと一緒に遊んだり、食事や排泄の世話をしたり、沐浴のお手伝い、買い物、調理、清掃、洗濯などの家事のお手伝いなどです。市でエンゼルヘルパー養成講座を受講修了した方が活躍しています。派遣時間は、午前9時から午後5時まで1回2時間を限度に、1日2回までで、料金は1時間500円です。

「放課後子どもプラン」って何？

三月十九日に千代田区で行われた第二回バックアップ研修の中で、次世代育成支援担当課中島課長より、千代田区での次世代育成支援推進計画について説明がありました。その中で取り上げられたのが平成十九年度政府予算案において新規施策として創設が認められた「放課後子どもプラン」でした。

昨今社会問題化した犯罪・凶悪事件や、子どもを取り巻く家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、政府からプラン創設の動きがあり、全国各地でも学童期への支援が急務の課題として対策が組まれ始めています。今回は、この「放課後子どもプラン」について概要をまとめてみました。

「放課後子ども教室推進事業」について

「放課後子どもプラン」は、各市町村において、教育委員会が主導して福祉部局と連携を図り、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」を一体的あるいは連携して実施するものです。

【文部科学省】

「放課後子ども教室推進事業」(新規)※一
六十八・二億円
すべての子どもを対象として、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動等の取組を推進

【厚生労働省】

「放課後児童健全育成事業」
百五十八・五億円
保護者が労働等により昼間家庭にいない概ね十歳未満の児童に適切な遊び及び生活の場を提供

では、文部科学省で創設される新規事業「放課後子ども教室推進事業」(※一)とはどういったものなのでしょうか。

【放課後子ども教室推進事業※一】の要旨

子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)づくりが求められている。

このため、「放課後子ども教室推進事業」を創設し、全国の小学校区(一〇、〇〇〇小学校区)において、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施する。

同事業は少子化対策として極めて重要であり、留守家庭児童を対象とする厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」(放課後児童クラブ)と一体的あるいは連携した総合的な放課後対策(放課後子どもプラン)として推進する。

この事業においては、家庭の経済力等にかかわらず、学ぶ意欲がある子どもたちに学習機会を提供する取組の充実を図る。



千代田区ではこの「放課後子どもプラン」に基づく地域計画の中で、支援者の皆さんの活動の機会が作られることも視野に入れた今後の展開を模索しているところということでした。

文部科学省と厚生労働省の放課後対策事業推進のための連携方策が下記のように打ち出されています。

市長村での連携

放課後子どもプランを策定し、小学校区毎の円滑な事業を実施
○放課後対策事業の「運営委員会」の設置【担当省:文部科学省】
行政(教育委員会及び福祉部局)、学校、放課後児童クラブや社会教育・児童福祉関係者及び地域住民等がプランの策定、活動内容やボランティアの確保等、同事業の運営方法等を共同で実施・検討→全市町村に設置

○コーディネーターの配置【担当省:文部科学省】

同事業の円滑な実施を図るため、学校や関係機関等との連絡調整、ボランティア等の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの策定等を実施→全小学校区に配置

○活動場所における連携促進

・余裕教室をはじめとする学校諸施設(体育館、校庭、保健室等)の積極的な活用の促進
・同事業の関係者と学校の職員間で、子どもの様子的変化や健康状態、下校時間の変更等の情報交換を促進

都道府県での連携

実施主体である市町村において円滑な取組促進が図られるよう、事業推進に向けた支援を実施

○放課後対策事業の「推進委員会」の設置【担当省:文部科学省】

行政、学校、福祉や社会教育の関係者、有識者等が研修の企画等、域内の放課後対策の総合的な在り方を共同で検討→全都道府県・指定都市・中核市に設置

○放課後子どもプラン指導者(員)の研修の開催

【担当省:文部科学省・厚生労働省】
これまで事業毎に実施していた指導者(員)研修を合同で開催することにより、プラン関係者の情報交換・情報共有、資質の向上等を推進→全都道府県・指定都市・中核市で開催

この取組は「行政や学校だけでなく、地域の多くの方々の参画がなければ定着・促進されない取組であること」、「地域社会全体で地域の子どもたちを見守り育む気運の醸成が図られ、この取組を通じた地域コミュニティの形成が、子どもを育てやすい環境の整備につながる」と言われており、地域住民の参加・協力の必要性が示されています。

「公園デビュー」という言葉がありますが、最近では、「大学デビュー」という言葉があるといいます。これは、新入生は新しいクラスに決まると、いくつかできるグループの中に入り込めるかが大きな問題であり、入れないと、昼食をとるのも一人、ノートも借りられないなど、その学生は一人ぼっちになってしまう、まさに死活問題になるそうです。随分と、大変なことだと思えますが、実際、仲間に入つたとしても、その仲間同士でコミュニケーションが取れるかというとまた別問題なようです。例えば、学生4人が一つのテーブルを囲んでいるとしても、一人ひとりは携帯でゲームをしていて、相互の会話と交流はない様子を見かけます。

すでに大学では、社会人としてのマナーを履修科目に入れているところもあり、学問のほかに、生活の基本を学ぶような場所にもなっています。今の大学生はやがて社会に出て、結婚、子育てということもあると思いますが、この大学生の気質がすぐに変わっていくには思えません。

札幌市子ども未来局子育て支援部子育て支援課 吉田課長から
今後の子育て支援の取り組みについて綴っていただきました。

ることを心掛けているのですが、つい結論を先に言ってしまうなど、「コミュニケーション」を取る難しさを実感し、反省しきりです。

札幌市では、外出することがなかなか困難で良好なコミュニケーションをとれていないような子育て家庭に対して、区役所の保育士が直接出向く、「出前子育て相談」の試行を2区で始める予定です。育児不安を抱えている保護者は少なくないと思いますので、少しでも軽減できるような取り組みになればと考えています。

また、これからは、女性の社会参画はもちろん、子育て家庭への情報提供や父親の育児参加、さらには、食育などが子育て支援の中で重要な柱になってくると思われますが、このためには、マナーが欠かせません。「子育て・家族支援者養成講座」の認定者・準認定者の方は、まさにこの中核になっていくものと考えています。

4月に統一地方選挙が行われましたが、子育て支援については、札幌市民の関心も高く、今後も、あい・ぽーとステーション、千代田区、浦安市の皆さんと連携をさせていただきながら、子育て支援、家族支援について、ますます、真剣に取り組んでいかなければならないと考えているところです。



千代田区

第三回 バックアップ研修のお知らせ

第三回の千代田区 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時平成十九年五月八日（火）

午後三時から四時三十分

場所西神田コスモス館 二階 記念室

内容二部構成

I. 「活動状況報告

及び課題解決に向けた助言」

講師あい・ぽーとステーション代表理事 大日向 雅美

II. 「手遊び・エフロンシアターなど」

講師 子育てひろば「あい・ぽーと」 一時保育主任 櫻井 薫

ご出席の方は四月二十七日（金）までにあい・ぽーとステーション事務局（Tel.03-6657-8539）までお申込みください。

浦安市

第三回 バックアップ研修のお知らせ

第三回の浦安市 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時平成十九年五月九日（水）

午前十時三十分から十二時三十分

場所浦安市健康センター一階 第一会議室

（保育室文化会館 第一練習室）

内容二部構成

I. 「手遊び・絵本・ペープサートなど」

講師 子育てひろば「あい・ぽーと」 保育士 星 義輝

II. 「活動状況報告

及び課題解決に向けた助言」

講師あい・ぽーとステーション代表理事 大日向 雅美

詳細は浦安市子ども家庭課より改めてお知らせいたしますので、各自出欠のご連絡をお願い致します。

浦安市・千代田区3級第2期生募集!!

浦安市では五月九日より、続いて千代田区では六月十一日より子育て・家族支援者養成講座（三級）第二期がスタートします。浦安市ではすでに募集が締め切られ、四十四名の新規申込者の受講が決定しました。千代田区では四月二十日より募集が開始されます。今回の講座で単位履修を受けられる方も多くいらっしゃると思います。よりよい講座になるよう事務局も力を尽くして参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

また、千代田区支援者の方にはぜひ、区内で一緒に活動していただける仲間講座のお声がけをしていただきますよう、ご協力をお願い致します。

事務局から

（榎本）
支援者の皆さんのパワーをもらって、これで未来の子育ても安心！と思えたら、妊娠になりました。生命の不思議を体全体で感じています。第二期講座開講が待ち遠しいです。（小貴）
今月からスタートした「声の広場」、原稿が来るかどうか不安でしたが、支援者の方から投稿いただいて本当に嬉しかったです。今後とも宜しくお願いいたします。（畑村）

手稲山に雪がある間は風が冷たい札幌です。それでもひろばに集うこともたは泥んこあそびに夢中。肩をすぼめながら見守る親たち…。早く暖かくなあれ！（後藤）
雪もすっかりなくなり、日差しも暖かくなってきました。北海道の遅い春まであと少しですね。外を歩くたくさんの親子に出逢いそうですね。楽しみです。